

滋賀大生の新たな才能と挑戦し冒険する志を応援！

KINTO

みらいファンド賞 授賞式

2026.1.15 14:40～ 滋賀大学講堂

式次第

開会

1、学長挨拶

2、株式会社キントー様挨拶

3、KINTOみらいファンド賞 授与

4、受賞活動の報告

閉会

懇談会

鷺 健人 [データサイエンス学部3年] 〈進取の精神部門〉

政治分野のDX導入を支援。市議・県議・政党支部に業務ヒアリングを行い、選挙事務の課題を特定・改善策を提案。現在は個人から組織レベルまでDX導入を担い、契約・納品・保守まで一貫して対応中。

竹内 大和 [データサイエンス学部3年] 〈進取の精神部門〉

大学2年次に個人事業主として開業し、県内外企業のデータ分析業務に従事。塾の校舎立地選定やバス需要予測、業務自動化などを担当。現在は大手メーカーの分析にも参画し、マーケティングや顧客関連のデータ分析を担当。今後は地方企業向け分析パッケージ開発・展開予定。

中野 歩華 [経済学部4年] 〈三方よし部門〉

ガーナのカカオ農園でのインターンシップに挑戦。気候変動による生産減少の課題解決のため日陰を作る植樹策を提案・実施し、自然環境を維持しながら、高温対策に取り組んだ。また、現地の雇用創出にも貢献。信頼構築を軸に持続可能な課題解決を実現した。

松井 大 [経済学部3年] 〈三方よし部門〉

観光で人の温かさが国境を越えて循環する社会を目指し、京都・滋賀でインバウンド観光を支援。外国人観光客の案内に加え、データサイエンスを活かして受入れ体制の整備やSNS発信を行い、現場の信頼とデジタル拡散で双方をつなぐ仕組みを構築。

AWARD DETAILS

受賞活動

KINTO
みらい
ファンド

生野 莉玖斗 [経済学部4年] 〈滋賀大学チャレンジャー部門〉

インドの日系酪農企業で大量廃棄される牛乳の活用し、ミルクジャムの商品化に挑戦。市場調査と試作を重ね、現地で親しみのある食材を取り入れ、5つ星ホテルでの採用を実現。課題解決力と粘り強さを培った。

石田 暉 [経済学部4年] 〈滋賀大学チャレンジャー部門〉

英語力を鍛えた後、ウガンダの物流企業で医薬品配送に係るインターシップに挑戦。バイクと保冷設備を活用した低温輸送事業を企画し、デモ配送で信頼を獲得。4つの医療機関と契約し、品質重視の物流モデルを構築した。

葛山 欧亮 [経済学部4年] 〈滋賀大学チャレンジャー部門〉

大学3年次終了後、タンザニアで2か月間インターンシップに挑戦。医療アクセス改善を目指し、置き薬の営業に従事。代金回収難を調査し、牧場経営者へ置き薬の導入提案で事業安定化を図り、現地雇用と健康支援に貢献。

木田 直歩 [経済学部4年] 〈滋賀大学チャレンジャー部門〉

ガーナ産のコーヒー豆を取扱う企業で営業・販促のインターンシップに従事。新メニュー開発や試飲販売、SNS発信を通じブランド認知を向上させ、国内外市場への展開に挑戦した。

栗本 颯人 [経済学部4年] 〈滋賀大学チャレンジャー部門〉

西アフリカ・ベナン農村部で4か月間インターンシップに挑戦。スマホ割賦販売の新モデルを現地の主要3言語対応で開発し、企業の売上と住民の生活向上を両立。村に住み込み課題を精査し、DX化推進に貢献。

小島 陸 [経済学部4年] 〈滋賀大学チャレンジャー部門〉

ベトナムでのインターシップでコンサル営業改善により社内売上1位を達成した。その後、ウガンダへ渡航し、小学校への太陽光発電導入を推進し、教育現場に具体的な変化をもたらし、課題解決力と国際対応力を磨いた。

小林 祐也 [経済学部4年] 〈滋賀大学チャレンジャー部門〉

ルワンダの日本原産植物輸出企業で4か月間インターンシップに挑戦。大規模農園で肥料投与の不備を改善。従業員との信頼構築や面談を重ね、現地従業員が抱える実状を把握。ペア作業体制を提案し、施肥精度向上に貢献。

下井 一夫 [経済学部4年] 〈滋賀大学チャレンジャー部門〉

大学を花で彩る活動を3年前に開始し、花壇や花瓶設置を通じて潤いある環境を創出。障がい者雇用促進を目指し、全国の国立大学を対象とした調査や論文執筆も実施。サステナウィークでは障がい者と学生が協働で花を植えるプログラムを企画し、共生社会の実現に貢献。

銚藤 蓮 [経済学部4年] 〈滋賀大学チャレンジャー部門〉

2024年11月～2025年3月、ローイング競技の代表選考に挑戦し、U23ナショナルチームに選出。強化合宿を経てオランダの国際大会に日本代表として出場し、女子ペア種目で決勝進出を果たした。

横山 倫太郎 [経済学部3年] 〈滋賀大学チャレンジャー部門〉

2025年8月～9月、インド・ジョードプルの乳業企業で販路拡大と売上向上を目的に経営分析を実施。IoT導入による利益率向上や不正防止策を提案し、現地日系企業の社内ベンチャーキャピタル部門向けプレゼンで再投資を訴求。現場調査を通じ、技術導入の社会的課題と文化理解の重要性を学んだ。